

* 聖書本文:ヨハネの福音書3:1-18(新約聖書)

* 題目:「神の救いと神の国による最大の祝福」

* 説教者: 鄭南哲牧師



お正月休みはいかがお過ごしでしたか。始まった2022年、始まった日常生活、始まった職場でのお仕事、始まった子どもたちの学校生活、特にこれから成人として始まる生碩兄、シンヒョン兄の上に、いつも主が共におられ、豊かな恵みと祝福をお与え下さいますように祈り申し上げます！！今日で2022年第2週目主日共同礼拝を捧げる時間です！今年もコロナ禍の中で全能なる主の御手が共にあり、どんな状況の中であっても、神の栄光をあらわす存在として、キリストの愛の管となり、神の尊い存在として大いに用いられる一年となりますように心から感謝を申し上げます！

もしも、ある人がこの世で一生涯一生懸命信仰生活をやって来たのですが、最終的に神様の御国に入れなくなったならどうなるのでしょうか。その悔しさは表現することが出来ません。事実、キリスト者の信仰生活の最後の結果は神様の御国に入り、永遠に栄華を享受することですが、もし、神様の国に入ることができない信仰生活なら、そこには確かに何か大きな問題があるのではないかと思います。

今日、聖書を読んで見ると、夜中にイエス様のところへニコデモという人が訪れました。この人はその当時の社会での身分が高い人でした。今日の国会議員と同じようなレベルである公会(こうかい)の議員で、宗教的にはユダヤ教の中でパリサイ派に所属されたのでイスラエル人たちは彼を[先生]と呼ばれました。

事実、パリサイ人たちと言えば、無条件的に、偽善者、外飾主義者として罵倒しますが、彼らのすべてが悪かったわけではないのです。本来はパリサイ人たちほど、当時、神様の前で熱心に正しく生きようと努めた人たちはいませんでした。彼らは神様の前で正しく生きるために自分たちの情熱が強すぎた結果、後には人の前とそうじゃない時の行動がますます差が出来てしまい二重的に偽善の代名詞になってしまいましたが、イエス様は彼らの偽善は習ってはいけないものの、彼らの教える教訓は習うように言われたのです。

今日、ニコデモもパリサイ派に所属されていた人だったので、自ら信仰の誇らしい自負心やプライドを持っていたので、人々が少ない夜中にこっそりとイエス様のところに訪ねて来たのは当たり前だったかも知れません。当時彼はイスラエル人なら誰でもメシア(救い主)に対する待望思想(たいぼうしそう)を持っていたと思います。だから、ニコデモはどこかで誰かが神様の国を伝えている人がいると聞き、イエス様を調べ、ずっと注目して見ると、きっと神のもとから来られた方ではなければ、あのように出来ない確信をもっていたので、夜中イエス様に訪ねて来て、「あなたがその人ですか。」と質問するほど旧約聖書からずっと予言されていたメシアを待ち望んでいた人であることが。

このようなニコデモに誰が信仰のない人だとかってに言うことが出来るのでしょうか。このニコデモが今日、夜にイエス様のところに訪ねて来ました。彼がなぜ夜中に来たかは分かりませんが、おそらく、社会的に地位ある人がまだ検証されていなかったイエス様というある預言者を訪ねてもいいかという人々の視線のためだったかも知れません。とにかく、確かなことは公会の議員であり、パリサイ人の中でも指導者だったニコデモがイエス様のところに訪ねたことを通して、彼がメシアについてずっと大きな関心を持っていたことが分かります。

本文2節ですが、彼はイエス様のところに訪ねて来ると次のように言いました。「先生、私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのであれば、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」彼のこの質問は一言で表現すると、『あなたはすなわち、神様が約束してくださったその人ですか。』という意味でした。つまり、イスラエルを救うために来たメシアですかという質問でした。

しかし、イエス様はニコデモのこの質問に全然関係なさそうな返事をされました。本文の3節です。「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』』とされました。

クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族の皆さん！今、イエス様はニコデモの話聞き間違ったのでしょうか。イエス様の知的なレベルが低かったのでニコデモの話の意味を把握することが出来なかったのでしょうか。あるいは、イエス様は当時の偉いさんたちが行っていた名門学校の出身ではなかったので意思の疎通が欠いたからでしょうか。確かにニコデモは「先生、私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのであれば、あなたがなされるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」と言いました。

この話の意味は、もう一度言いますと、あなたが、すなわち、イスラエル民族のすべての人が待ち望んでいたそのメシアですかという意味でした。しかし、イエス様は的はずれな答えをなされたのです。「人は新たに生まれなければ神の国を見ることは出来ない。」ここに「神の国を見ることはできない。」と言われたのですが、この御言葉の意味は『神の国に入ることはできない。』という言葉の意味と同じなのです。すなわち、「あなたは神の国に入ることができません。」という意味だったのです。

きっとニコデモはものすごく大きな衝撃を受けたと十分に思われます。ニコデモはイスラエルの国で少なくとも信仰のリダーであり、先生と呼ばれるほど、人々から信仰ぶかく熱心な模範として尊敬されていた存在でした。社会的に有名な公会の会員でした。信仰の面で、出身とか家門を見ても、彼は他の人と比べても足りないことはありませんでした。彼は生まれた時から伝統的なイスラエルの信仰の教育を受けたし、ユダヤ教の中で神様に仕える熱心は誰よりも優れていたのです。そして、神のメシア、救い主を待ち望むことに対しても誰より前に立っていると思ったのに、このように自分に対してイエス様の話は一体、納得がどうしても出来なかったと思います。だれと、どこと比べても、自分と比較することが出来ないナザレ出身、大工(だいく)さんの家で生まれたイエスという人に一発を打たれたニコデモの気分がどうだったと思われますか。

愛する信仰の家族のみなさん。もし、皆さんがニコデモだったらどうしたと思いますか。もしみなさんもニコデモのように今まで神様のために頑張って奉仕をしたり、熱心に聖書を学んだり、毎週教会にも来て礼拝をささげたり、献金も何とか頑張ってささげたのにイエス様が皆さんの前に現れてあなたは御国に今のままだったら入れないよ！と言われたらみなさんはどうしますか。このように深刻に考えたことがありましたか。続けてニコデモとイエス様の姿に観察して見ましょうか。

たぶんニコデモの自尊心はめっちゃくちゃになったかも知れません。ニコデモは一瞬、次のように考えたかも知れません。‘やっぱり、田舎出身だからしょうがないなあ。大工さんの出身だから話が通じないんだらう。あるいは、知的な差があるのにこのイエスに訪れた私がバカだなあ’と思うと、ニコデモは一瞬、自分がイエス様のところに来たのを後悔したかも知れませんでした。

しかしながら、4節によりますと、イエス様のお言葉にニコデモは反論しました。「ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができますでしょうか。」」

皆さん！今ニコデモは自分なりにものすごく賢明な反論を言い出しました。彼の反論はものすごく現実的であり、理性的であり、常識的であり、科学的だったのです。ニコデモの話の中で間違ったところが一つでもありますか。

“先生！『新しく生まれる』という言葉は再び母親の胎内に入って生まれるという意味ですが、もう成人になった人がどうして母親の胎内に入るができるのでしょうか。人が母親の胎内に入って再び出るのは生物学的で見ても不可能なことであり、ありえない話しです。それは論理的に正しくないのです。”

もし、そんなことが可能であっても、もう母親がなくなった方はどうするのですか。

結局、イエス様のこの話はニコデモに言葉遊びとして聞こえたかも知れませんが、冗談として聞いたかも知れませんが、ただ、人々を笑わせるために意味のない話として聞いていたかも知れませんが。

イエス様の話が事実だったら、結局、自分だけではなく人間なら、だれも神様の国を見ることは出来ませんし、御国に入ることもできないから彼は自分の考えではイエス様がきっと間違ったと思い込んでいたでしょう。

その思いの奥には他の人はどうであれ、自分は天国に十分入れる資格はあるだろうと思っていたかも知れませんが。イスラエルの中でいったい自分のようにパリサイ派たちも入らない天の国だったら、一体誰が入るのか思ったんじゃないでしょうか。

イエス様の御言葉は今まで神様を一生懸命に熱心に仕えて来ながら思っていた正しい信仰生活の基準とは全然関係ない話しようでした。

そして、**5節**を見て見ましょうか。賢くて自信満々なニコデモ、しかし、今イエス様の前で自尊心を傷つけられ、どうすることも出来ない彼にイエス様は言われました。「**イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければならない、神の国に入ることは出来ません。」**」と言われました。

これはどういう意味でしょうか。**救いはあなたからではなく、神様による出来事であるという意味なのです。**まず、イエス様が言われた御言葉の意味は、人の肉体が年をとった母親のお腹の中に入るのではなく、**魂が御霊と水によって洗われ新しくなるのを意味したのです。**本文に「**水と霊とによって**」という言葉は人が自らできることではありません。神様の御働きなのです。だから、イエス様は**6節**に「**肉によって生まれた者は肉です。霊から生まれた者は霊です。**」と言われました。つまり、**私たちの体は年をとった母親の胎内に入ることも出ることもしないですが、それができると言っても、人の魂が救われることとは何の関係もありません。私たちの体が母親の胎内に百回も入ったり出たりすることができても、私たちの魂の救いとは全然関係がないという意味なのです。肉は肉だからですと意味はその意味なのです。**

それでは、『**新しく生まれる**』と言う言葉は何の意味ですか。これは**神様との関係の回復**を意味します。

しかし、**神様は私と神様との関係の回復を望んでおられますが、私たちにある罪のために関係が回復できないので、まず、この罪を全部洗わないと神様との関係は回復できないのです。ですから、私たちはまず洗礼を受けなければならないのです。洗礼は神によってすべての罪が洗われるのを意味します。**洗礼は同時に罪人である私たちは霊の洗礼も受けることにもなるのです。そして、本文の「**水**」という言葉は、**霊の洗礼を受けた人がその証拠として水を通して神様と神の家族の前で公に洗礼を受けたという外面的なしるし**なのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！人が新しく生まれるためには自らの力では絶対に出来ません。神様がなしてくださらなければなりません。しかし、人たちは自分の力でできると思って自ら熱心にすべての力を尽くして努めます。でも、それでは不可能なのです。**この問題を解決するために神様はイエス・キリストをこの世に送ってくださったのです。**そして、約束された救い主であるイエスキリストが私たちのために、十字架の上で罪のすべての天罰をご自身の身に負わせ、お受けとって下さいました。これからはすでに神の愛の中でなされて下さった十字架の贖いの事実を根拠(こんきょ)にして、**ただそのイエスキリストを救い主として受け入れ、信じることにより、神の国、御国に入る門が開かれています。**

そして、イエス様はその後みなさんがよく聞いたことがある御言葉を語り続けました。

ヨハネの福音書3章15節から18節まで何方が読んで頂きますか。

「:15 それは、信じる者がみな、**人の子にあつて永遠のいのちを持つためです。**」:16 神は、実に、そのひとり子をお与えにえになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、**御子によって世が救われるためである。** 3:18 **御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかつたので、すでにさばかれている。」**

みなさん！自分がクリスチャンだと言いながら、ニコデモのように考えている人が多いと思われぬのですか。

ニコデモは今、旧約聖書からずっと予言されてた救い主、メシヤイエスキリストが自分の目の前に立ておられるのに、盲人のように見れなかったのです。そして、最後まで信じませんでした！ニコデモは今、自分の聖書知識、自分の奉仕やこれまでの熱心や人々からの人気と尊敬されていることにとらわれていて、**もう自分は天国にはいれる基準を通過(つうか)したと錯覚していました。**しかし、それは人の基準であり、自分の基準であつて神様の基準ではありません。**今の彼は救い主イエスキリストを信じなかつたため、神の国に入ることが決してできませんでした。**みなさんはどうですか。真剣にみなさんはかならず、神の国に入れますか。

ニコデモは結局どうだったか気になるでしょう。ヨハネの福音書**19章39節**を読んで見ますと、彼はイエスキリストが十字架につけられた後、その場に出てイエスキリストと最後を一緒にいたことを見ると、イエス様の御言葉を聞いてすぐだったか、しばらく時間を経ちながらイエス様が自分におっしゃった御言葉を吟味しながら、信じて救われた可能性が高いと十分予想できます。

聖書は確かに伝えます。人が新しく生まれなければ神の国を見ることも、入ることもできないとはっきり教えられました。私たちは体ではなくまず魂が新たに生まれなければなりません。イエス・キリストは私たちが新たに生まれさせるためにこの世に生まれ、そして、十字架で死んで下さいました。私たちの罪を洗ってくださるためでした。この事実を信じて受け入れることが新しく生まれることなのです。なぜかとしたら、これからはこの事実を信じる者はだれでも我々の罪をイエスキリストの御名によって告白すること(悔い改め)により、すべての罪が赦され神様との関係が回復されるからです。

エペソ人への手紙2章3節—9節まで読んで見よう。

「:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、:5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、あなたがたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです—:6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。:7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。:9 行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。」アーメン。

-ヨハネの手紙第一1章9-10節-

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちを清めてくださいます。10:もし、罪を犯してはいないというなら、私たちは神を偽り者とするのです。神の御ことばは私たちのうちにありません。」

この真理を信じるこそ、御霊の洗礼を受けることであり、父なる神様と御子イエス・キリストと御霊の御名によって水の洗礼を受けることができます。そして、霊と水で洗礼を受けた人はその時から神様の国を見ることができます。

このような確信と体験を持っている聖徒はどのような試練の中にも揺れることはありません。

愛する信仰の家族の皆さん！未だに自分の魂が新たに生まれなかったら、その人は残念ながらまだ単なる宗教生活に過ぎません。天の国を見えるように見ているかと思っているかも知れませんが、実は天の国には入れません。

見えないというその証拠は何だと思えますか。自分自身のすべての望みをまだこの世に置いているのを見ると、すぐ分かるでしょう。

神様の御国が見えない人はいつもこの世中心に、相変わらず自己中心(自分が神のように生きようとする)に生きています。しかし、視線を、心をこの世に向けず、目を上げて神様の国が望むクリスチャンは神様の御国に望みを置いて生きるのです。末があるこの世にある物に執着せず、自分からの快樂を求めず、イエスキリストを通しての人生の満足と楽しみを求めつつ、神様との関係を第一にするため、日々霊的な呼吸(こきゅう)が詰まらないように悔い改めながら生きます。そして、自分の力、感情に従わずに、イエスキリスト中心にイエスキリストが下さる日々力と知恵と恵みによって生きるのです。そのような人はいつこの世に終えても後悔にならないようになるべく頑張ってたただ与えられた日々を感謝しつつ、そして与えられたまわりの人々に感謝し、愛を注いで生きることができると信じます。

愛する主にあつて聖徒みなさん。救いは神様の国が存在するのを知ることではできません。それは悪魔もこの事実は知っています。今日のニコデモもよく知っていました！知るために教会に出席する人は死ぬ時まで神の国を習っても見ることは出来ません。ただ知るために教会に出席する人は「人は新たらしく生まれなければ、神の国を見る事が出来ません。」という御言葉を聞いても真剣に自分を探りながら考えられないかも知れません。神様の国を見る人、御国に入れる人は知っている人ではなく、信じる人なのです。

愛する信子の家族のみなさん！救いは知っていることではありません！見ることです！入ることです！享受することです。永遠に生きることなのです。信じることなのです！

願わくは、クリスチャンプレイズチャーチに通うみなさんと我らの子どもたちだけではなく、自分と関わる全ての人々も神様の御国を見て、入って、神の救いを享受する全信仰の家族みなさんとなりますように切に祝福しお祈り申し上げます。アーメン。